

# 三月の天象

## 太陽

月始めは双魚宮にあり、21日午前11時35分に春分點を通過する、即ち、此の時、太陽の黄經は0度0分0秒さなるので、其れ以後は白羊宮に入る。

日	赤經	赤緯	星座	視直徑	北極の傾	赤道の位置
2	22時50分	南 7度28分	水瓶座	16分10秒	西へ22度	北へ 7度
12	23 27	3 36	魚座	16 8	24	7
22	0 3	北 0 21	ク	16 5	25	7

此の欄で、「北極の傾」及び「赤道の位置」として表はしてある量は二月號(第9卷140頁)に柴田氏が詳しく説明されてゐるから参照され度い。同文中Pは「北極の傾」の事で、+符號は“東へ、”-符號は“西へ”として此の欄では現はしてゐる。又、Bは「赤道の位置」に相當するもので、+符號は“南へ”、-符號は“北へ”に相當する。尚ほ、此の欄では大體の値丈示してあるので、もつこ詳しい値は本年度の天文年鑑にある。

## 月

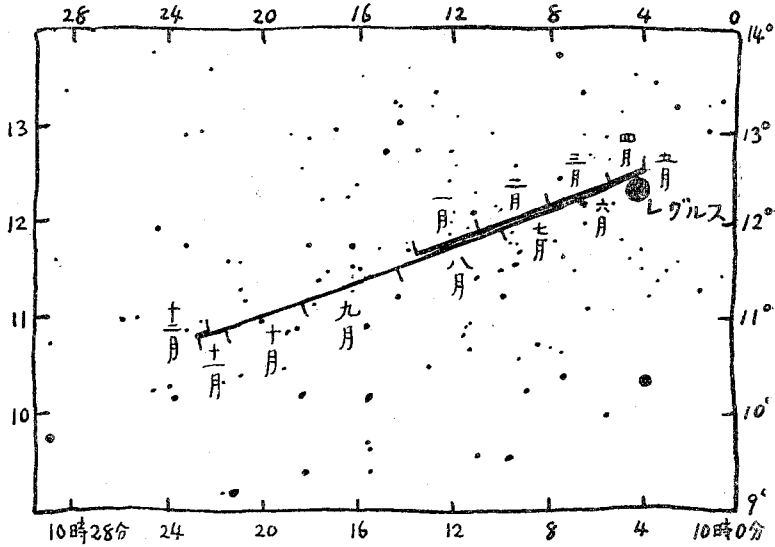
月の相	時刻	星座	視直徑
下弦	3日午後 8時 9分 0秒	蝸	29分38秒
新月	11 午後 5 36 36	水瓶	31 22
上弦	18 午後 4 41 30	牛	32 19
満月	25 午後 4 46 18	乙女	31 2
遠地點通過	4 午後 1 54	蛇遣	29 36
近地點通過	17 午後11 24	牛	32 20

今月は5日午前7時に土星の南側を通り過ぎ、9日午前9時半に水星の南4度の處を進み、12日午後8時に火星と同じく南側を横ぎつて行く。14日午後5時頃金星のすつこ南を過ぎる。處が15日には木星がすれすれの處を通る筈であるが其の時刻が午前7時12分であるため、我國から見えないのは残念である。次いて19日午前2時半火星の北側1度以内の所を通り、最後に天王星と22日午後11時半に出會つて今月の巡回を終る。

## 海王星がレグルス星に接近

海王星は二月19日に衝さなつたのであるから、今月では既に宵の東天に

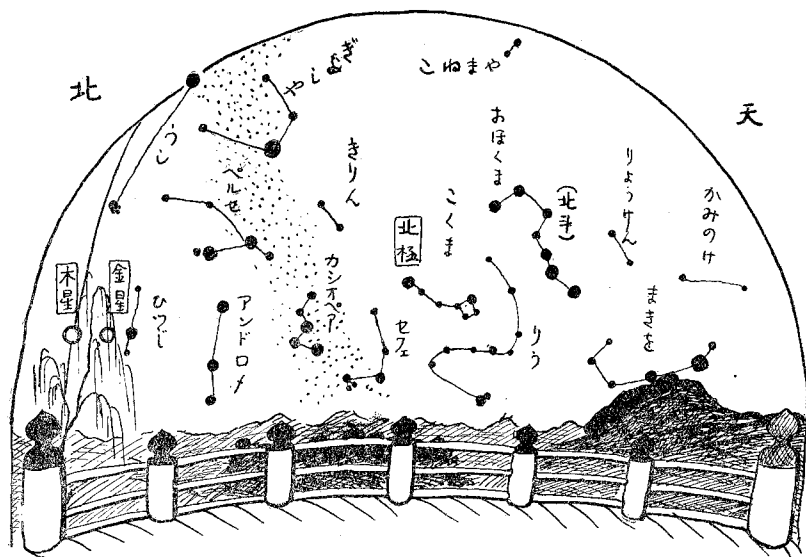
相當高く見える位置に来てゐる。而かも觀望に都會がよいのみでなく、一等星レグルス（獅子座 $\alpha$ ）星に非常に接近して來たので、二吋又は三吋望遠鏡を有する會員諸氏ならば容易に見付ける事が出来るであらう。そして、海王星の今後の運行を大體略記する事にし様う。尙ほ圖を参照され度い。



海王星の本年中の運行圖  
 (海王星の行路附近は大體9等星まで記入してある)

海王星は今月始め、丁度、レグルス星の眞東約く1度の邊にあつて、同星に向つて徐々に接近しつつある。そして四月12日にレグルス星の北側、僅かに8分の所を西方へ向つて通り過ぎる。併し同星から西方へ12分、北方へ12分の所に五月10日に到達するに、其處で留まなつて、其の後は東方へ向つて徐々に順行を始める。従つて、海王星は六月7日には再びレグルス星の北側8分の近距離の處を東方に向つて通過する。其の後は年末まで、東行を續けて十二月6日に留まなつて以後逆行に移る。

兎に角、海王星は、此れを見る時刻から言つても、又たレグルス星に近付いて來る點から言つても今月から六月頃までが好時期である。視直徑は2秒半で今年中では最も大きい値。四月以後次第に小くなる。光度は7.7等級。

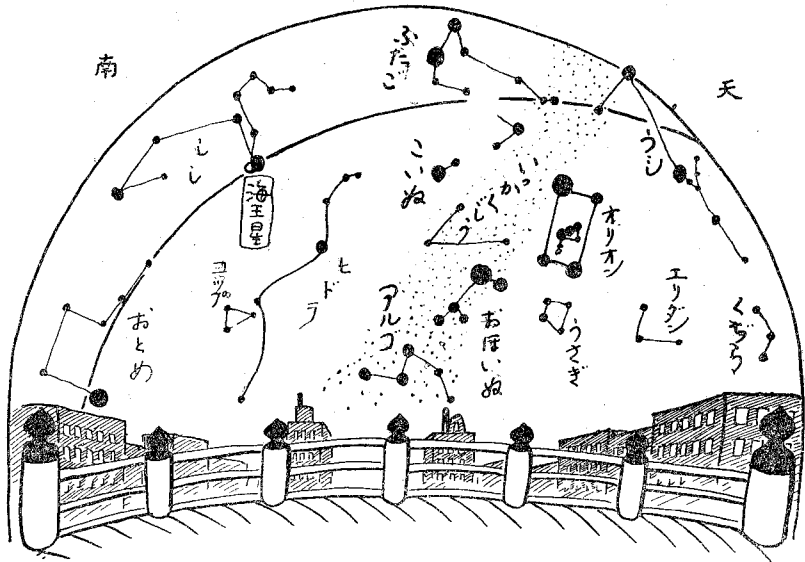


## 恒 星 界

京は三條の大橋から北に向へば、右手に遠く比叡の勇姿が聳えてゐる。丁度その頂上に、今や「まきを」が登つて来たばかりである。「りょうけん」や「かみのけ」は可成り高くなつて来た。下鴨の森の眞上に北極星は落ちついて、星のめぐりを司まつてゐる。

銀河は稍々西寄りに南北に流れ、此れに沿ふ「セフェ」や「カシオペヤ」は既に北の山の端に近い。「アンドロメ」は半ば姿を没し、「ひつじ」「ペルセ」は之れに續く。北斗七星は高く懸つて、北極を指示し、「やまねこ」「ふたご」は天頂に近い。月末に金星と木星とが並ぶのは面白い景色である。

眼を轉じて南面すれば、四條通りの賑やかな街の光に、地平線に近い星は見えないが、「アルゴ」「オリオン」「おほいぬ」等の巨星居並び、「ヒドラ」の長い身體や、今登つて来た許りの「おこめ」等認められる。「くぢら」や「エリダ」は殆んど西に沈んで了つたが、「ふたご」星座中の火星はまだまだ見落す事が出来ないものゝ一つである。「しし」座の海王星は今月から見ものである。(前頁を参照せられよ)



## 遊 星 界

**水星** 5日朝西方最大離角27度14分となる。此れが本年度最大の離角である。が暁の東天であるから朝寝坊には見られない。18日には近日点を通過する。月始め「やぎ」のθ星附近にあり、順行を續けて月末には「みづがめ」の東端に達する。視直径は次第に小さくなる。即ち、月始め7秒半、月半には5秒半。光度は大體零等級。

**金星** 2日夜に近日点を通過する。29日に留まなる。宵の星座「うを」座から「ひつじ」座へ徐々に移動する。視直径は次第に増加して月始め31秒より、月末49秒半に到る、光度も月始めは増加し、遂に15日最大光輝負4.2等級となり、宵の明星として西天を壓するであらう。

**火星** 可成り地球から遠ざかると同時に宵の西天へ傾いて來たが「うし」座から「ふたご」座へ徐々に順行を續ける。視直径8秒。光度約1等級。

**木星** 次第に金星に追付かれて月末には兩星は並ぶ。視直径は次第に減じて大體、32秒、光度は負1.7等級。

**土星** 暁の星。「いて」座にあり。光度0.7等級。視直径は15秒。

**天王星** 28日に太陽さ合、觀望不能。

**海王星** 獅子座α星に近し、別稿参照。